

# とわてい 埼玉

## 第22回埼玉・タイ王国友好協会 総会・講演会の開催中止

7月14日(火)に開催を予定していた第22回総会・講演会は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止としました。総会で審議を予定していた左記の3議案に関しては、役員会による書面決議とし、会員の皆様から「同意書」を提出していただきました。その結果、すべての議案について、会員の皆様からご提出いただきました「同意書」の過半数の同意をもって承認されました。

2019年度事業報告では、日タイ修好130周年記念事業の継続として電気のない村の通学路への太陽電池式街灯設置や、協会設立20周年記念事業の継続として手縫いコースター等製作の一村一品運動の支援、また緊急支援事業として幼小中学校の飲料水用設備工事などについて報告しました。2020年度事業計画では、日タイ修好130周年記念事業の継続として太陽電池式街灯設置を行うほか、人材育成支援として引き続き大学生や高校生への奨学支援資金授与を行うことや、教育関連施設の支援として幼小中学校への保健室建設事業を実施することが承認されました。

### 【審議事項】

- 第1号議案 2019年度事業報告及び収支報告
- 第2号議案 2020年度事業計画(案) 及び収支予算(案)
- 第3号議案 役員改選について

### 退任

▽副会長 佐伯鋼兵 (埼玉県商工会議所連合会 会長)

▽幹事 細沼哲夫 (日本伸管㈱ 代表取締役会長)

### 新任

▽副会長 池田一義 (埼玉県商工会議所連合会 会長)

▽幹事 細沼直泰 (日本伸管㈱ 代表取締役社長)

「同意書」の提出にご協力いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。



▲緊急支援 飲料水用設備工事の様子



▲協会設立20周年記念コースター完成授与式(2019.2.5)

## タイ王国との更なる関係強化に向けて



会長  
原 敏成

まず初めに、当協会の幹事でございました細沼哲夫様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今年度の当協会の総会・講演会は、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、残念ながら中止とさせていただきます。総会で審議を予定しておりました議案に関しては、役員会による書面決議とし、会員の皆様からご提出いただきました「同意書」の過半数の同意をもって無事可決となりました。皆様のご協力に御礼申し上げます。

昨年度は、日タイ修好130周年記念事業の継続として、電気のない村の通学路への太陽電池式街灯の設置を行ったほか、協会設立20周年の記念品として現地の中学生による手縫いのコースターを製作し、会員の皆様にお配りさせていただきました。また、緊急支援事業として、幼小中学校の飲料水用設備工事の支援を行いました。今年度につきましては、新たな支援事業として幼小中学校への保健室建設工事の計画も進めております。

新型コロナウイルス感染症の影響が続き、先が見通せない状況ではございますが、今後とも支援のニーズ調査を実施しながら、当協会として何ができるか検討し、実行してまいりたいと考えております。

また、2020年3月より駐日タイ王国特命全権大使に就任されましたシントン・ラーピセート大使閣下から、当協会あてにメッセージを頂戴し、深く感謝申し上げます。大使閣下をはじめ駐日タイ王国大使館の皆様方におかれましては、当協会への日頃のご厚情に感謝申し上げますとともに、バンサーン・ブンナーク前大使閣下に引き続き、埼玉県とタイ王国の友好関係の発展のためにお力添えいただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様方からの格別のご高配に心より感謝申し上げますとともに、埼玉県とタイ王国の友好関係が今後ますます進展しますよう、あらためてご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

# メッセージ シン・ラーピセートパン駐日タイ王国特命全権大使



▲シン・ラーピセートパン 駐日タイ王国特命全権大使

埼玉・タイ王国友好協会の方々の皆様、こんにちは。

タイ国王陛下より駐日タイ王国特命全権大使を拜命しました。その後、2020年3月17日に日本国天皇陛下に信状を捧呈し正式に着任致しました。日本への赴任は今回で3回目となりますので、第二の故郷に戻ってきたような安心感と共に、職責への期待と使命感を感じています。7月14日に予定されていた総会は残念ながら中止となりましたが、皆様とお会いするのを旧友と再会するような気持ちで楽しみにしていました。この度は、会報にてご挨拶する機会を頂きありがとうございます。また、コロナウイルス感染拡大が猛威を振るう中、生活や事業において影響を受けている皆様には心よりお見舞い申し上げます。一刻も早く事態が収束することを願っております。

埼玉・タイ王国友好協会と私の関係は、協会発足前の1999年1月に遡ります。元埼玉県知事故土屋義彦氏がタイ北部チェンマイのプーピン宮殿にてシリキット王妃・現王太后陛下に拝謁した際、外務省で日

本を担当していた私は、拜謁の調整をすると共に、通訳として同行しました。王室の方々への拜謁には多くの手続きと儀礼がありますが、王妃陛下は特別に御一行をチェンマイに御招待なさいました。拜謁時の和やかな雰囲気を含め、鮮明に覚えています。協会の設立が1999年3月ですから、その2ヶ月前のことです。また、私の1回目の東京赴任は2002年、2回目は2010年でしたので、現会長の父君である故原宏氏には何度もお目にかかりお話する機会がございました。会員の方々と共に、大使館主催事業へお越しになられた際の柔和な笑顔を思い出します。さらに、2019年3月に協会は設立20周年を迎え記念事業も実施されたという、民間による「草の根外交」が変わらず長く継続されていることに深く感激致しました。両国の友好・親善を目的とする多様な事業の開催、大使館を含めタイ政府関係機関への多大なる協力に対し、現会長を始め会員の皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

タイと日本は長きに渡り良好な関係を築いてきました。正式な外交関係樹立から、今年で133年目となります。両国関係は政治、経済、投資、観光、文化など多岐に及び、相互に欠くことのできない存在となっています。現在、コロナウイルス感染拡大が世界経済に大きな影

響を与えています。未曾有の危機に立ち向かうべく、両国の協力関係はさらに強固なものになることが期待されます。県内からは自動車産業を始め多数の企業がタイに進出し、経済面で緊密な関係を築いてきました。インフラが整い、裾野産業が発達しているタイは、日系企業にとって魅力的な投資先です。現在、タイ政府は産業の高度化を目指し新たな投資奨励策を打ち出しており、従来の産業に加え、電気自動車など次世代産業の生産拠点となることを目指しています。文化面では、秩父市の龍勢祭りやヤソトン市のロケット祭りの相互交流や、埼玉在住のタイ人が華やかな衣装で参加する川越唐人揃いパレードなど文化交流も盛んです。加えて、東京オリンピック・パラリンピックに向けたタイのホストタウンに川越市が登録され、空手の代表選手団がトレーニング合宿を行っています。

この他にも多くの分野で親密な交流が続けられています。そして、私は埼玉県とタイとのこれまでの良好な関係をさらに強化させるべく、皆様と新たな一歩を踏み出し連携を深めていくことを願っています。タイ大使館は今後も協会を全面的に支援すると共に、協会からのご意見、ご助言を賜りたく存じます。

最後になりますが、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

# チェンマイ県メーター幼小中校保健室建設事業

当協会では2020年度の教育関連施設の支援としてチェンマイ県メーター幼小中校への保健室建設事業を決定し、開始にあたり、8月12日(水)に事業の調印式を開催しました。

メーター幼小中校はチェンマイ県にある山岳民族学校で、生徒の約半数は敷地内の寮に住んでいます。自宅が遠いため休日も寮で過ごす子ども達が多いのですが、この学校には体調不良や怪我の手当てをするための保健室がありません。この現状を受けて、当協会では子ども達が健康で勉強に励めるよう、保健室建設事業に取り組むことを決定しました。



▲保健室建設予定地(2020年10月時点で基礎工事で完了)



▲左よりソパー教師、スリパイ教頭、ワンチャイ氏、マイ氏

調印式はメーター幼小中校の大会議室にて執り行われ、学校からは校長代理のスリパイ・クナ教頭、当協会からは現地会員の堀田様とともにご協力いただいているワンチャイ氏及びマイ氏、その他ソパー教師が出席しました。当日はスリパイ教頭とワンチャイ氏が事業の覚書にそれぞれ署名し、お互いの覚書を取り交わして無事締結となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、日本やタイ王国が大変な状況の中、調印式を開催できたことを感謝申し上げます。今後、現地協力者の方々のご協力をいただきながら、子ども達の健康維持・促進のために保健室建設事業を進めてまいります。

# 学生への奨学金支援資金授与報告

当協会では2016年より学生への奨学支援資金授与を行っており、今年で第5期目を迎えます。第1期支援生徒2名、第2期支援生徒3名、第3期支援生徒2名、第4期支援生徒2名に加え、総会（役員会）による書面決議）での承認を受け、今年度は第5期支援生徒として新たに2名が対象となり、計11名へ奨学支援資金を授与することが決定しました。今回新たに支援を開始した第5期支援生徒のアンパン・ラウワンさんとナムティップ・ソートさんはいずれもメーター幼小中学校出身ということもあり、8月12日㈪に開催されたメーター幼小中学校保健室建設事業の調印式に併せて支援金の授与を行いました。



▲左から3番目よりアンパンさん(大学2年)、ナムティップさん(高校1年)

その他の支援生徒についても、現地協力者の方々の協力を得ながら順次支給を行いました。



▲右 第2期支援生徒ナタウッド君(高専4年)



▲前列左から第3期支援生徒シラブラパーさん、ナリッサラーさん(高校3年)

新型コロナウイルス感染症の影響により、タイ王国では新学期が遅れ、大学生たちは学費や生活費の足しにするためのアルバイトも出来ず、学生にとっては学業面でも生活面でも苦しい状況が続いています。当協会の支援資金により、将来生徒の皆さんが立派に成長してくれることを期待しています。

## 第1期支援生徒



▲左よりボンニチャー校長とノップラダーさん(大学2年)

長が、このメコン幼小中学校に赴任されていることが分かりました。ボンニチャー校長はメーター幼小中学校の保健室建設事業に当初より尽力いただいておりますが、残念なことに調印式を目前に異動となっていました。今回、ノップラダーさんの教育実習をきっかけに再びご縁が繋がりました。

## ノップラダーさんの教育実習



▲教育実習の様子

第1期支援生徒で今年大学2年生になったノップラダー・パヤボンさんが、8月3日(月)から約1カ月間にわたりランパン県のメコン幼小中学校にて教育実習に参加し、教師への道の第一歩を踏み出しました。

## 第1期支援生徒出身校

## メーピン校シラボン校長の勇退

2016年より取り組んでいる当協会の奨学資金支援ですが、この支援を開始するきっかけとなった第1期支援生徒の母校であるメーピン校の校長シラボン氏が、この年度定年を迎えられ、校長職を退職されました。

タイ北部の山岳地帯では長年に渡り生活環境等の問題で優秀な指導者の確保・定着が難しいという課題がありました。そこで当協会では、新たな人材育成支援として、過去に教育施設の建設支援を行った学校の卒業生の中から、将来タイ北部地域で教育関係の仕事に就くことを希望する高校生・大学生を対象に学費および生活費の一部を助成することを決定しました。第1回目の支援先としてご協力いただいたメーピン校のシラボン校長は、教育への熱い思いをお持ちで、この人材育成支援事業の開始に際しても様々なご尽力をいただきました。

シラボン氏の長年にわたるご活躍に心からの敬意を表しますとともに、ご退職後も、幸多き人生を歩まれることを心よりお祈り申し上げます。



▲校長を引退されるシラボン氏(左)

継続支援事業 第4弾

埼玉ータイ光リレー

2017年より日タイ修好130周年記念事業として始動した『埼玉ータイ光リレー』は、電気のない村の通学路へ太陽電池式街灯を寄贈する支援事業です。村から村へ光のバトンを繋げていきたいという思いから『光リレー』と名付けられました。

第1回目の2017年はランブーン県メーター郡ホワイホーム・ノーク村へ5基寄贈し、第2回目の2018年は同郡ホワイホーム・ナイ村へ5基寄贈しました。第3回目の2019年は太陽光パネル・電池・インバーターが一体となったリチウム電池式の新型太陽電池式街灯を導入し、従来よりも安く軽量で工事が簡単のため同一予算内でより多くの街灯の設置が可能となり、同郡クンコン村へ10基寄贈することができました。

第4回目となる今年も昨年同様に新型太陽電池式街灯を導入し、同郡ホワイ・ヒヤ村へ10基寄贈しました。通学路が明るくなり、子ども達も大変喜んでいて現地から報告を受けています。



この事業は当初、ランブーン県メーター郡の電気のない村七村からの要望を受け、それぞれの村へ太陽電池式街灯を設置する計画を進めてきました。残るは同郡の北地区に位置する三村でしたが、昨年の現地調査によると、当初支援を予定していた北地区パダン村では、国からの助成により校舎の屋根に大型の太陽電池が300枚以上置かれ、電柱や電線等の電気設備も敷設が進み、街灯も設置されているとのことでした。

事業開始当初と現在では北地区の状況が変わっていることから、街灯設置事業は北地区の自主的な行動にゆだねるのが適当と判断し、『光リレー』は2020年の第4回目で完了とする方向で検討をしています。



2017年から2020年の4年間にわたり電気の無い村の通学路に光を届けてきましたが、この事業を通して、タイ現地の子どもの生活を支援できたことは大変光栄に思います。今後も現地調査を進め、当協会として可能な限りの草根支援を続けていきたいと考えています。

第21回 タイ・フェスティバル2020 延期

「毎日タイフェア」オンラインで開催中!

2020年5月9日(土)〜10日(日)に代々木公園イベント広場にて開催を予定していたタイ王国大使館主催「第21回タイ・フェスティバル2020」は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮し、延期となりました。延期後の日程や場所については決まり次第タイ・フェスティバル公式HP (www.thaifestival.jp) 及びタイ王国大使館公式HP (site.thaembassy.jp) に発表されます。

なお、タイ・フェスティバル公式HPでは「毎日タイフェア」と称し、タイの食品や料理、果物、雑貨等を紹介する特設ページが用意されています。気になった商品はそのままネット注文が可能となっており、1年365日オンラインでタイ・フェスティバルが楽しめるようになっていきます。ご自宅からタイ気分が味わえる「毎日タイフェア」、皆さんも楽しんでみてはいかがでしょうか。

ダルニー奨学金本年度の授与者

本年度の新規授与者は、次の3名です(年間1人14,400円で3年間)。

ダルニー奨学金は、

経済的貧困のため、教育の機会に恵まれないタイ・ラオス・ベトナムなどの子どもたちの中学生就学を支援する国際教育里親システムです。



チュターラット  
イアムサイ  
13歳



ウィーラーヤ  
ピラーディーン  
13歳



ナッターナン  
チャンドークラック  
13歳

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

・会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428  
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118  
(武州ガス(株)内)

編集後記

定年退職されましたメーピン校のジラポン校長には、教育施設建設や人材育成支援など多大なるご尽力いただきました。心より感謝申し上げます。(H)

次回号では、完成した保健室を紹介できる予定です。安全に作業が進むことを願っています。